

## 事業名 農福連携プロジェクト

### 事業の概要

誰もが就業の機会を得て誇りをもち自立した生活を！農福連携によるダイバシティの実現



2015年、JAの空き店舗を活用し、障がい者の就労を支援する取組みをスタートした。栽培技術などの指導を行い、農業法人などへの就労を促す。JAでも幅広い事業を用意し、能力と適応に応じた仕事をマッチング。本人の意向があればJAが雇用する。優秀な働き手と職場でも高評価を得る。

### 背景・経緯

JAでは、農福連携が認知される以前から、人権教育、地域貢献活動に力を入れてきた。障がい者の雇用はその活動が発展したものであり、農業分野で就労機会を増やすことが地域の再生・活性化につながると考えている。JAが目指す「持続可能な農業の実現」「豊かで暮らしやすい地域社会の実現」「協同組合としての役割発揮」の実現にも通ずる取り組みとなっている。



### 事業のポイント

職業訓練から就職に移行する仕組みをつくる  
就職を見据えた実践的な職業訓練の実施、職場のコミュニケーション機会の増加により、離職率を低下させる取り組みとなっている。職業訓練が仕事として成り立つようであれば、その業務に従事できる条件で就職する「ジョブコンソーシアムシステム」というスタイルを実践。

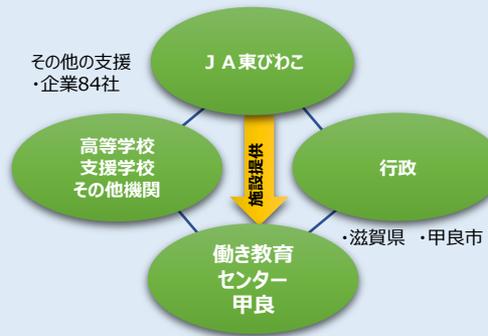
農業を基盤とするJAだからこそその支援が好評  
いろいろな施設があるJAでは、幅広い仕事を用意することが可能。さらに「種まきから始まり、土に触れて植物を育てるとみんな生き生きする」など農業ならではの園芸療法による効果もある。

### 事業の効果



農家の高齢化、担い手不足など、農業労働力の減少は長年の課題となっている。農福連携は、こうした農業労働力の一役を担う可能性がある。  
また、障がいがあるなどいろいろな事情を持つ人が共に働く職場では、自然とお互いのことを考えながら関わり合い、助け合う関係が生まれる。障がい者が働きやすい職場はユニバーサルデザインの職場となっている

### 連携する組織等



### 「働き教育センター甲良」と連携した就業支援

学校法人関西福祉学園は、学校運営の中で培われたノウハウやつながりを生かして障害者を支援する就業支援事業所「働き教育センター」を設立した。JAは敷地内に「働き教育センター甲良」を誘致し、職業訓練の受け入れ、雇用という農福連携の取組みを行う。  
就労前から実習を重ね、就労後もセンター職員と連携し障害者のサポートを行う「ジョブコンソーシアムシステム」を取り入れている。

### 将来性・発展的展開



### 様々な分野での雇用を検討

現在は、学校給食への搬入や育苗など営農センターで雇用しているが、今後は事務的な分野にも広がっていくなど職域開発にも取り組み、障がい者の雇用を促進する予定。